

## 貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額			科目	金額		
	全体	一般会計	後期高齢者 医療特別会計		全体	一般会計	後期高齢者 医療特別会計
【資産の部】				【負債の部】			
固定資産	89,676,477	—	89,676,477	固定負債	—	—	—
有形固定資産	—	—	—	地方債	—	—	—
事業用資産	—	+	—	長期未払金	—	—	—
土地	—	—	—	退職手当引当金	—	—	—
立木竹	—	—	—	損失補償等引当金	—	—	—
建物	—	—	—	その他	—	—	—
建物減価償却累計額	—	—	—	流動負債	17,095,383,385	91,948	17,095,291,437
工作物	—	—	—	1年内償還予定地方債	—	—	—
工作物減価償却累計額	—	—	—	未払金	17,095,291,437	—	17,095,291,437
船舶	—	—	—	未払費用	—	—	—
船舶減価償却累計額	—	—	—	前受金	—	—	—
浮標等	—	—	—	前受収益	—	—	—
浮標等減価償却累計額	—	—	—	賞与等引当金	—	—	—
航空機	—	—	—	預り金	91,948	91,948	—
航空機減価償却累計額	—	—	—	その他	—	—	—
その他	—	—	—	負債合計	17,095,383,385	91,948	17,095,291,437
その他減価償却累計額	—	—	—	【純資産の部】			
建設仮勘定	—	—	—	固定資産等形成分	6,065,421,523	—	6,065,421,523
インフラ資産	—	—	—	余剰分(不足分)	16,293,495,886	72,378,281	16,221,117,605
土地	—	—	—				
建物	—	—	—				
建物減価償却累計額	—	—	—				
工作物	—	—	—				
工作物減価償却累計額	—	—	—				
その他	—	—	—				
その他減価償却累計額	—	—	—				
建設仮勘定	—	—	—				
物品	—	—	—				
物品減価償却累計額	—	—	—				
無形固定資産	—	—	—				
ソフトウェア	—	—	—				
その他	—	—	—				
投資その他の資産	89,676,477	—	89,676,477				
投資及び出資金	—	—	—				
有価証券	—	—	—				
出資金	—	—	—				
その他	—	—	—				
投資損失引当金	—	—	—				
長期延滞債権	89,676,477	—	89,676,477				
長期貸付金	—	—	—				
基金	—	—	—				
減債基金	—	—	—				
その他	—	—	—				
その他	—	—	—				
徴収不能引当金	—	—	—				
流動資産	39,364,624,317	72,470,229	39,292,154,088				
現金預金	31,839,609,697	72,470,229	31,767,139,468				
未収金	1,549,269,574	—	1,549,269,574				
短期貸付金	—	—	—				
基金	5,975,745,046	—	5,975,745,046				
運営安定化基金	5,975,745,046	—	5,975,745,046				
財政調整基金	—	—	—				
棚卸資産	—	—	—				
その他	—	—	—				
徴収不能引当金	—	—	—				
資産合計	39,454,300,794	72,470,229	39,381,830,565	純資産合計	22,358,917,409	72,378,281	22,286,539,128
				負債及び純資産合計	39,454,300,794	72,470,229	39,381,830,565

## 行政コスト計算書

自 平成28年4月 1日  
至 平成29年3月31日

(単位:円)

科目	金額		
	全体	一般会計	後期高齢者 医療特別会計
経常費用	709,865,793,936	356,858,232	709,510,859,411
業務費用	15,345,538,668	73,308,053	15,272,230,615
人件費	9,350,420	3,993,684	5,356,736
職員給与費	5,849,156	3,763,684	2,085,472
賞与等引当金繰入額	—	—	—
退職手当引当金繰入額	—	—	—
その他	3,501,264	230,000	3,271,264
物件費等	2,519,085,341	69,314,369	2,449,770,972
物件費	2,519,085,341	69,314,369	2,449,770,972
維持補修費	—	—	—
減価償却費	—	—	—
その他	—	—	—
その他の業務費用	12,817,102,907	—	12,817,102,907
支払利息	—	—	—
徴収不能引当金繰入額	—	—	—
その他	12,817,102,907	—	12,817,102,907
移転費用	694,520,255,268	283,550,179	694,238,628,796
補助金等	694,520,255,268	283,550,179	694,236,705,089
社会保障給付	—	—	—
他会計への繰出金	—	—	1,923,707
その他	—	—	—
経常収益	929,204,054	821,801	928,382,253
使用料及び手数料	—	—	—
その他	929,204,054	821,801	928,382,253
純経常行政コスト	△ 708,936,589,882	△ 356,036,431	△ 708,582,477,158
臨時損失	73,186	73,186	—
災害復旧事業費	—	—	—
資産除売却損	73,186	73,186	—
投資損失引当金繰入額	—	—	—
損失補償等引当金繰入額	—	—	—
その他	—	—	—
臨時利益	—	—	—
資産売却益	—	—	—
その他	—	—	—
純行政コスト	△ 708,936,663,068	△ 356,109,617	△ 708,582,477,158

## 純資産変動計算書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

(単位:円)

科目	全体	一般会計	後期高齢者 医療特別会計
前年度末純資産残高	20,122,401,817	105,061,191	20,017,340,626
純行政コスト(△)	△ 708,936,663,068	△ 356,109,617	△ 708,582,477,158
財源	711,173,178,660	323,426,707	710,851,675,660
税金等	643,659,143,271	323,209,707	643,337,857,271
国県等補助金	67,514,035,389	217,000	67,513,818,389
本年度差額	2,236,515,592	△ 32,682,910	2,269,198,502
固定資産等の変動(内部変動)			
有形固定資産等の増加			
有形固定資産等の減少			
貸付金・基金等の増加			
貸付金・基金等の減少			
資産評価差額	—	—	—
無償所管換等	—	—	—
その他	—	—	—
本年度純資産変動額	2,236,515,592	△ 32,682,910	2,269,198,502
本年度末純資産残高	22,358,917,409	72,378,281	22,286,539,128

## 資金収支計算書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

(単位:円)

科目	金額		
	全体	一般会計	後期高齢者 医療特別会計
<b>【業務活動収支】</b>			
業務支出	706,877,745,063	356,858,232	706,522,810,538
業務費用支出	12,357,489,795	73,308,053	12,284,181,742
人件費支出	9,350,420	3,993,684	5,356,736
物件費等支出	2,519,085,341	69,314,369	2,449,770,972
支払利息支出	—	—	—
その他の支出	9,829,054,034	—	9,829,054,034
移転費用支出	694,520,255,268	283,550,179	694,238,628,796
補助金等支出	694,520,255,268	283,550,179	694,236,705,089
社会保障給付支出	—	—	—
他会計への繰出支出	—	—	1,923,707
その他の支出	—	—	—
業務収入	712,238,432,728	324,248,508	711,916,107,927
税収等収入	643,659,143,271	323,209,707	643,337,857,271
国県等補助金収入	67,514,035,389	217,000	67,513,818,389
使用料及び手数料収入	—	—	—
その他の収入	1,065,254,068	821,801	1,064,432,267
臨時支出	—	—	—
臨時収入	—	—	—
<b>業務活動収支</b>	<b>5,360,687,665</b>	<b>△ 32,609,724</b>	<b>5,393,297,389</b>
<b>【投資活動収支】</b>			
投資活動支出	6,035,214,837	59,469,791	5,975,745,046
公共施設等整備費支出	—	—	—
基金積立金支出	6,035,214,837	59,469,791	5,975,745,046
投資及び出資金支出	—	—	—
貸付金支出	—	—	—
その他の支出	—	—	—
投資活動収入	59,469,791	59,469,791	—
国県等補助金収入	—	—	—
基金取崩収入	59,469,791	59,469,791	—
貸付金元金回収収入	—	—	—
資産売却収入	—	—	—
その他の収入	—	—	—
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 5,975,745,046</b>	<b>0</b>	<b>△ 5,975,745,046</b>
<b>【財務活動収支】</b>			
財務活動支出	—	—	—
地方債償還支出	—	—	—
その他の支出	—	—	—
財務活動収入	—	—	—
地方債発行収入	—	—	—
その他の収入	—	—	—
<b>財務活動収支</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>本年度資金収支額</b>	<b>△ 615,057,381</b>	<b>△ 32,609,724</b>	<b>△ 582,447,657</b>
前年度末資金残高	32,454,575,130	104,988,005	32,349,587,125
<b>本年度末資金残高</b>	<b>31,839,517,749</b>	<b>72,378,281</b>	<b>31,767,139,468</b>
前年度末歳計外現金残高	174,327	174,327	—
本年度歳計外現金増減額	△ 82,379	△ 82,379	—
本年度末歳計外現金残高	91,948	91,948	—
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>31,839,609,697</b>	<b>72,470,229</b>	<b>31,767,139,468</b>

## 1 重要な会計方針

### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

当会計年度における資産はありません。

### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

当会計年度における有価証券及び出資金はありません。

### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

当会計年度における棚卸資産はありません。

### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

当会計年度における有形固定資産等の減価償却はありません。

### (5) 引当金の計上基準及び算定方法

徴収不能引当金

長期延滞債権については、不納欠損処理を行っていないため計上していません。

### (6) リース取引の処理方法

#### ① ファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

#### ② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

### (7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含む。）

### (8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

#### ① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が100万円以上の場合に資産として計上しています。  
ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。  
ただし、当会計年度における資産はありません。

#### ② 会計間の相殺方法

会計間の繰入繰出を相殺消去した金額で表示しています。

#### ③ 消費税及び地方消費税の会計処理

税込方式によっています。

## 2 重要な会計方針の変更等

変更はありません。

## 3 重要な後発事象

該当する事象はありません。

## 4 偶発債務

当会計年度末においては、現実の債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるものはありません。

## 5 追加情報

### (1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

#### ① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

後期高齢者医療特別会計

#### ② 地方自治法第 235 条の 5 に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

#### ③ 地方自治法第 233 条の規定に基づく決算情報との関連性

ストック情報（資産・負債）や現金支出を伴わないコストを発生主義で認識しています。

### (2) 貸借対照表に係る事項

当会計年度より統一的な基準により作成を行なっています。

### (3) 行政コスト計算書に係る事項

当会計年度より統一的な基準により作成を行なっています。

### (4) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

#### ① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における基金を加えた額を計上しています。

#### ② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

### (5) 資金収支計算書に係る事項

#### ① 基礎的財政収支 △ 6 1 5 , 0 5 7 , 3 8 1 円

#### ② 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳 資金収支計算書（全体諸表について記載しています）

業務活動収支	5, 3 6 0, 6 8 7, 6 6 5 円
投資活動収入の国県等補助金収入	—
未収債権、未払債務等の増加（減少）	△ 3, 1 2 4, 0 9 8, 8 8 7 円
減価償却費	—
賞与等引当金繰入額（増減額）	—
退職手当引当金繰入額（増減額）	—
徴収不能引当金繰入額（増減額）	—
資産除売却益（損）	△ 7 3, 1 8 6 円
純資産変動計算書の本年度差額	2, 2 3 6, 5 1 5, 5 9 2 円

#### ③ 一時借入金

当会計年度における一時借入金の借入れはありません。

なお、一時借入金の限度額は次のとおりです。

一時借入金の限度額（一般会計） 1 0, 0 0 0 千円

一時借入金の限度額（後期高齢者医療特別会計） 1 5, 0 0 0, 0 0 0 千円